2014 年度 小委員会活動成果報告

（2015 年　2 月　9 日作成）

小委員会名	次世代排水システム小委員会	**主 査 名**：坂上　恭助 **就任年月**：2012 年　4 月
所属本委員会 （所属運営委員会）	環境工学委員会 （建築設備運営委員会）	**委員長名**：田辺　新一 **主 査 名**：郡　公子
設　置　期　間	2012 年　4 月　　～　　2015 年　3 月	
設　置　目　的 各年度活動計画 （箇条書き）	従来の非満流重力排水システムの体系に組み込まれていない、小径排水システム（サイホン排水方式、圧送排水方式、真空排水方式）や自封式トラップの諸特性を評価し、適用性の拡大の方策を検討し、設計ガイドライン案を策定する。また、東日本大震災の経験を踏まえて、自立給排水設備の構築を検討する。 ・初年度：設計ガイドラインのフレーム作り。自立給排水設備の情報収集。 ・２年度：設計ガイドラインの素案を策定。自立給排水設備の体系化を試みる。 ・３年度：設計ガイドライン案を策定。自立給排水設備の体系をまとめる。	
委員構成 （委員名（所属））	**委員公募の有無**：なし 主査：坂上恭助（明治大学）、 幹事：古賀誉章（東京大学）・丸山秀行（ブリヂストン） 委員：安孫子義彦（ジエス）、飯塚 宏（日建設計）、小寺定典（UR 都市機構）、 髙津靖夫（芝工業）、下田邦雄（給排水設備研究会）、門脇耕三（明治大学）、 大塚雅之（関東学院大学）、仲川ゆり（JR 東日本）、加藤健一郎（斎久工業）、 稲田朝夫（須賀工業）、小島邦晴（共立エステート）、岡内繁和（鹿島建設）	
設置 WG （WG 名：目的）	なし	
2014 年度予算	100,000 円	**ホームページ公開の有無**：なし **委員会 HP アドレス**：

項　　目	自己評価
委員会開催数	８　回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 （シンポジウム･セミナー等） *能力開発支援事業委員会承認企画	第 2 回次世代排水システムシンポジウム 機械・サイホン排水システム設計ガイドライン(AIJES)」刊行に向けて （次世代排水システム刊行小委員会との共催）　　参加者数　６８名
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 （当初の活動計画と得られた成果との関係）	１．設計ガイドライン案を策定する。　　→達成度 100% ２．自立給排水設備の体系をまとめる。　　→達成度　50%
委員会活動の問題点・課題	１．設計ガイドライン案づくりに注力し、自立給排水設備研究が進まなかった。 ２．建築計画研究者・建築意匠設計者の参画が望まれる。

＊小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

＊表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。

＊　小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

＊　中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用　自己評価欄

2014 年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	Ⓐ　　~~B~~　　~~C~~　　~~D~~
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	本小委員会の主目的である、設計ガイドライン策定については、２年度までは傘下の「機械排水システム WG」と「サイホン排水システム WG」において、それぞれの担当部分についてたたき台を作成し、それを小委員会に報告して議論することで、作業を進めた。 その結果、２年度（2013 年度）の目標の素案づくりという目標を大きく超え、最終年度に予定していた設計ガイドライン第一案の策定が達成でき、当初予定より 1 年前倒しして AIJES としての刊行企画の承認と 2014 年度からの刊行小委員会の立ち上げの承認を得ることができた。 2014 年度の最終年度には２つの WG を廃止し、刊行小委に役割を移管した。ガイドライン案は、刊行小委が主導しながら本小委員会と一体で作成作業を行った。順調に草稿をまとめ、12 月 4 日には AIJES の要件である刊行に向けたシンポジウムを開催し、ほぼ定員の参加者を得ることができた。ガイドラインに対する意見も概ね好意的で、大きな修正点はなかった。そこで、２月に最終草稿を完成させ、３月には外部査読者に査読を委託する。これで、来年度の刊行への見通しをつけることができた。 一方、自立給排水設備の検討については、震災から時間が経って新しい情報も少なくなる中で、設計ガイドライン策定のほうに力を割いたため、目標達成度は 50％にとどまった。 以上、総合して、当小委員会の主要な目的である設計ガイドラインづくりについては予定を 1 年早めた進捗を達成しており、総合的な目標達成度は 85％程度とし、総合評価は A と自己評価した。 以上

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画･目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価･外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。